

第2回 横浜市金沢区地区センター指定管理者選定委員会 会議録	
日 時	令和3年7月28日(水) 午前9時00分～午後6時00分
開 催 場 所	金沢区役所6階2号会議室
出 席 者	中西委員、石黒委員、小林委員、佐野委員、森田委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開 ※一部非公開(傍聴人:なし)
議 題	1 応募団体の面接審査 2 指定候補者の選定審議
決 定 事 項	1 委員会の公開・非公開、面接審査の進め方、採点方法については、第1回指定管理者選定委員会で審議・決定した内容のとおりとすることを確認した。 2 今回公募8施設の指定候補者、次点候補者を次のとおり決定した。 <金沢地区センター> 指定候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <釜利谷地区センター> 指定候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <富岡並木地区センター> 指定候補者:株式会社有隣堂 次点候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <六浦地区センター> 指定候補者:株式会社有隣堂 次点候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <能見台地区センター> 指定候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <柳町コミュニティハウス> 指定候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <並木コミュニティハウス> 指定候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 <六浦スポーツ会館> 指定候補者:特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 3 報告書の作成、議事録の確認は委員長に一任する。
議 事	1 応募団体の面接審査 各施設、応募1団体あたり15分間のプレゼンテーション後、10～20分程度の質疑応答を行った。 (1) 金沢地区センター ア 団体A(特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会) (委員) 大学との連携について具体的な取り組みの実現性について考えはあるか。 (団体) 横浜市立大学のゼミと若年層の地区センター等の利用について共同研究を行っており、具体的には自主事業の企画をお願いしている。 (委員) 利用者ニーズの把握の具体的方法を教えてほしい。

(団体) 利用者懇談会や地域代表者を入れた各委員会での議論により地域の意見をうかがっている。また、来館者や各事業でのアンケート調査によりニーズの把握に努めている。これにより、これまで施設予約システムの導入、新規自主事業の開催、卓球台の更新等を実施した。

(委員) 若年層、特に高校生に対する具体的な取組はあるか

(団体) 自習コーナーについて利用しやすい場づくりを行うとともに職業体験、ボランティア参加の取組を行っている。また、来館促進として空き部屋を学習室として開放する等を行っている。

(2) 釜利谷地区センター

ア 団体A (特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会)

(委員) 西金沢コミュニティハウスや釜利谷地域ケアプラザとの連携をあげていたが具体的にはどのようなことを考えているのか。

(団体) 各施設間は離れてはいるが巡回パネル展の実施やZOOM等ITを用いた同時配信講座や、地域合同での催し物の開催を企画している。

(委員) 当日予約キャンセルによる空き部屋の確認はインターネットでわかるのか。

(団体) 施設窓口のデジタルサイネージのほか、施設のホームページでも随時確認できるので施設の空きが出ればすぐに確認できる仕組みになっている。

(3) 能見台地区センター

ア 団体A (特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会)

(委員) 業務点検報告書で休館時の対応について触れられていたが、具体的にはどのような取組を行っていたのか。

(団体) 休館中も常に再開準備を行い、電話対応や地域から印刷対応のほか、施設の点検・整備を行った。

(委員) 料理室や高校生・大学生の利用促進策について学割導入のほかに考えていることはあるか。

(団体) 料理室を使った自主事業の実施や大学と連携した自主事業の開催、大学生の視点でのPR活動(インスタグラム等の利用)を考えている。

(委員) 管理運営体制で指定管理施設間での人事交流等について行っているのか

(団体) 月1回の館長会の開催、年1~2回の副館長会の実施により情報共有等を行っている。そのほか0JTを用いたトレーニングを行っている。
人事交流については必要に応じて行っている。

(4) 六浦スポーツ会館

ア 団体A (特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会)

(委員) コスト削減として「安価なインターネットの導入」とはどのようなものか。

(団体) 六浦スポーツ会館には個人利用のテニスコートがあり共通のシステムでは組みにくく費用対効果の課題からも独自システムを導入している。高齢者へはスマホからの予約等に丁寧にレクチャーを行っている。

(委員) 修繕についてスタッフ対応とのことだが可能なのか。

(団体) 体育室の卓球台を主に修繕している。また敷地内の草刈り等を職員で努力し

で行っている。大規模な修繕については区役所と相談して業者で行っているが、細かい箇所について職員の自助努力で自主点検し、小破修繕できることは行っている。

(委員) 六浦地区センターとの連携を前提に提案されているが、両方指定管理者となった場合の経費の考え方、逆に指定管理者になれなかった場合はどのように考えているか。

(団体) 六浦地区センターの指定管理者になれず単独運営となった場合には現行の運営体制で行う。経費についてはスケールメリットを活かした13館の全体運営で行っていく。両方指定管理者となった場合には重複する人件費については経営努力による減額のほか、利用者への還元を考えている。

(委員) 2施設の連携について、地域的に環状4号線側と六浦駅側で別れており実際には行き来しづらいと思うが、どのように考えているか。

(団体) オンラインを用いて自主事業を2施設で同時に取り組むことができると考えている。また、2施設を使用し大会の規模を拡大することや、2施設間での巡回展示にも活用したいと考えている。

(5) 六浦地区センター

ア 団体B (株式会社有隣堂)

(委員) 地域団体・企業との連携について具体的にどのような企画をするのか。

(団体) ファンケルと連携したメイクアップ講座が人気で継続したいと考えている。また、図書については弊社のノウハウを生かしオンラインを用いた読み聞かせや周辺学校とのスタンプラリーを考えている。

(委員) 館長賃金について年270万円で適切な人材確保は可能と考えているか。

(団体) 館長は地域貢献にやりがいを持ち長く働いてくださった方をお願いしており、賃金面では理解いただいていると考えている。スタッフは徒歩で通勤できる近隣居住者を採用している。また、随時ヒアリングを実施して各職員からの要望を丁寧に聞き取るなどを行っている。

(委員) 次期の新規自主事業として何を企画しているか。

(団体) 今年度から利用の少ないママ世代の交流を図る目的としてロゼット手芸を企画している。その他、アンケートを実施しながら新規拡大を考えている。

(委員) 地域住民のつながりをどうするのか。サークル化等考えはあるか。

(団体) 自主事業からサークル化は中々難しいが、参加者の方にお示しをしながら取り組んでいきたいと考えている。

(委員) 他施設とのノウハウの共有や人事交流はどのように考えているのか。

(団体) 館長会を開催しているほか、自主事業担当の副館長間での情報共有により新規の自主事業を実施してきている。人事交流については、副館長が館長になる場合や、状況によって別の館に職員が異動する場合もある。

(委員) 地域住民の連携としてセンター委員会をどのような形で行っているか。

(団体) センター委員会を年1～2回開催し、地域の自治会町内会長や地域の学校長やサークル活動者にも参加していただき、意見をいただいている。

- (委員) 部屋の使用後の片づけは利用者のみが行うのか。
- (団体) 日々の部屋使用後の片づけは利用者をお願いしているが、休館日等にカーペットのクリーニング等定期的な清掃は業者が行っている。また美化担当のスタッフが開館前等に清掃を行っている。
- (委員) コロナ対策はどうしているのか。
- (団体) 入口でアルコールによる手指消毒と自動検温、マスク着用の徹底は必ず行っている。使用したものは、利用者だけでなく点検スタッフが注意して消毒している。また消毒専門のスタッフを採用しており、手すりや遊具等定期的に消毒している。
- イ 団体A (特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会)
- (委員) ITを用いた事業の実施とあるが、具体的にはどのように行うのか。
- (団体) 各館共有フォルダーを用いた情報共有を考えている。またSkypeについては導入済みであるが、今後はZoomの導入も考えている。また、施設予約システムについても3つの地区センターと並木コミュニティハウスで導入済みであり、このシステムを導入したいと考えている。
- (委員) 地域ニーズと利用促進策のターゲットに一貫性がないように感じるが。
- (団体) すべての世代が利用していただくことを目指しているが、特に若年層は利用が少ないため、横浜市立大学との研究成果を生かしていきたいと考えている。
- (委員) 指定管理者に選定された場合、現指定管理者からの引き継ぎについてどのように考えているか。
- (団体) 現指定管理者が実施している自主事業については継続していきたいと考えている。またスタッフも継続雇用することを考えている。
- (委員) 地区センターとスポーツ会館の2館を連携し1人の館長が見ていくとの提案だが館長が2館を掌握しきれぬのか。
- (団体) ITを活用し常時連絡できる体制をとる。また、スポーツ会館は現在も一人勤務で館長も常勤ではないため、スタッフの能力を向上させる研修等に力を入れており、スタッフ主体で運営している。緊急時、館長が六浦地区センターからスポーツ会館に向かう時間は自転車等使用すれば5分程度で可能であり、現行より管理体制は向上すると考える。
- (委員) 指定管理料の100万円削減の工夫、考え方を教えてほしい。
- (団体) 自主事業の展開の努力によって、経費の削減を考えている。一体体制により得られた利益は地域に還元し利用者サービスにつなげていきたい。
- (6) 富岡並木地区センター
- ア 団体B (株式会社有隣堂)
- (委員) 財務状況(貸借対照表)について①ソフトウェア、営業権②長期・流動負債未払金③コロナによる特別損失の3点の内容は何か。
- (団体) ①ソフトウェアは、勤怠管理や会計システムの更新に要した費用である。営業権は他業種の買収等によるいわゆる「のれん代」である。②長期未払金

は、店舗設備の割賦代である。流動の未払金は経費等の一時的なものである。③コロナによる特別損失は、休業中の店舗の店舗賃料や従業員の賃金である。

(委員) 富岡並木地区ならではの工夫、特に地域との連携交流についてどのように考えているか

(団体) 連合自治会を通じて地域とのつながりが大きくあり、特に富岡連合町内会の祇園船のお祭りの練習等で利用いただき日常的に地域の方とつながりを持っている。今後は防災に関して当センターが富岡の船溜まり真横にあるため津波対策を地域と連携していきたい。また並木シーサイド地区は働き盛りの方が多く、英会話やヨガなどの講座に参加していただいている。

地区センター周辺の地域は、同時期に作られた住宅群であるため地域の一体感があり、連合自治会の毎月の総会に必ず館長または副館長が出席している。地域のイベントは地区社協と連携をとって取り組んでいる。

(委員) 津波防災対策と高齢者、障がい者への対応はどのように考えているか。

(団体) 高齢者の対応は職員全員が認知症研修を受講し認知症サポーターとなっているが、元気な高齢者が多いので、特に高齢者として差別化して取り扱っていない。ただ何かあった場合に対応できるようAED等必要な準備は行っている。防災対策については年に2回消防署と一緒に防災訓練を行っている。津波に関しては、地域の方と協議をしてマニュアルを作成しスタッフに徹底している。高齢者、障がい者の方に対してはスタッフが避難誘導訓練を行っている。

(委員) 地域ケアプラザと聖星学園とはどのような連携を考えているか。

(団体) 年1回地域ケアプラザと聖星学園との合同でセンター祭りを連携して実施している。聖星学園はレクリエーションの場として体育室を使用してもらっている。地域ケアプラザは認知症予防講座や健康体操等イベントを主に体育室使用してもらって実施している。

(委員) 複数指定管理を行っている御社の強みやアピールポイントはあるか。

(団体) 自主事業企画の共有をはじめとした情報共有や施設内で起きたヒヤリハット事件・事故について共有して注意喚起や対応方法を共有している。また、予約システムの導入についてもコスト面で優位となっている。

イ 団体A（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

(委員) ガリバーマップや散策ガイドの作成についての具体策はあるのか

(団体) 地元の自治会町内会・地域団体との連携の中で実施したいと考えている。この地区は地域活動が以前より盛んであり、過去に並木地区と富岡第二地区ではガリバーマップを作られたということで、地域で活動されている既存団体と施設が協力し合って作成していきたい。そして施設が地域コーディネートして人と人をつなげる支援をさせていただければと考えている。また職員のコーディネート能力向上にも資するため5年計画で実施したいと考えている。

(委員) 異文化交流、多文化共生に関して具体的にどのような活動を考えているか。
(団体) 語学教室だけでなく、異文化理解が大切と考えているので、例えば在住外国人が講師となって自国の文化を紹介するといった講座などの機会を設けたい。また外国人の利用者には多言語翻訳機を受付に配備する。自主事業としては「多文化祭り」「世界の仮装ハロウィン」等を計画している。また国際交流ラウンジが年1回外国につながる小中学生が参加する多文化祭を開いているので、できれば地域の方も一緒になって実施できれば多文化理解につながると考えている。

(委員) 指定管理者となった場合、現指定管理者の予約システムを引き継ぐとは。
(団体) 現指定管理者が使用しているシステムが同じ「ソリマチ」のシステムと聞いているのでそのまま引き継げると考えている。

(委員) 周辺地域のコミュニティハウスとの連携とは具体的に何か。
(団体) 地域祭りの同時開催やスタンプラリーの実施、巡回展の開催などの事業展開を考えている。

(委員) 大学生との連携以外の視点で考えはあるか。
(団体) 若年層の利用が少ないというのは施設共通の課題のため、これから調査研究を経たうえで展開していきたいと考えているため大学生との連携を強調しているが、あくまでも全ての世代が利用しやすくなるためにはどうしたら良いかという視点での調査研究である。他にもSDGsの取組として「海洋科学技術センター横浜研究所」の小学校向けプログラムを活用して小学校等と連携して授業の実施を考えている。

(7) 柳町コミュニティハウス

ア 団体A（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

(委員) 健康づくりを強化したいとのことだが具体的な自主事業としてはどのようなことを実施するのか。

(団体) 現在健康づくり事業としては、骨盤調整を実施しているが、新たに気功体操等の新規実施を考えている。

(委員) 全体の運営に関して、これまでの経験を踏まえて改善したいこと新たに実施したいことはあるか。

(団体) 立地的に交通が不便であり、また旧青少年図書館であったことから部屋の構造上の問題があり、団体活動や自主事業を実施する面で制限があるが、今後は複数の部屋を一体的に利用して健康づくりの事業を実施し、新しい利用者に利用してもらうとともに、旧青少年図書館として図書の強みを前面にだしてより多くの方に利用してもらえよう進めていきたい。

(委員) 若年層の利用状況やニーズについてどのように把握しているか

(団体) コロナ前はロビーに子どもたちが居場所として集まり、学習室も利用がされていた。また子どもたちの本が多くあるため本を楽しみ来るお子さんや親子で本を読む光景も多くみられた。今コロナで厳しい状況ではあるが、だんだんと戻ってきている状況である。学習室が満席の場合は空き部屋を開放して

学習室として利用していただいている。

(8) 並木コミュニティハウス

ア 団体A（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

(委員) 「ナミキアートプラス」との連携について具体的にどのようなことを検討されているか。

(団体) 日本大学芸術学部から提案があり施設利用の協力をすることになったが、今後具体化していく予定である。施設として今後芸術分野に関しても積極的に協力していきたいと考えている。

(委員) リハビリテーションセンターが併設されているが障がいがある方が参加できるようなプログラムなどはあるのか。

(団体) クリスマス会等のイベントは車椅子でも来られるようスペースを広げている。耳の悪い人については筆談ボードを用意している。施設はオストメイトにも対応している。病院にも広報をしており、クリスマス会にも何人か参加いただいた。また病院の先生による講演会や病院の研修会として利用いただいている。

(委員) 病院が併設されている施設の特殊性を活かした活動を進められると良いと思うが、障がいのある方でも来やすいような取組はあるのか。

(団体) 車椅子利用者に対しては施設の駐車場を提供している。また館の特色を十分に活かして、病院の先生による医療講座や健康づくりの講座を計画している。また作品展や演奏会等に参加していただけるよう今後は努力していきたいと考えている。その他コミハ便りなどの広報を病院にも配架していただいている。

2 指定候補者の選定審議

各委員から講評を行い、採点を行った。集計結果は次のとおり。

<金沢地区センター>

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：623点 平均点：125点

<釜利谷地区センター>

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：608点 平均点：121.6点

<富岡並木地区センター>

株式会社有隣堂 合計：602点 平均点：120.4点

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：601点 平均点：120.2点

<六浦地区センター>

株式会社有隣堂 合計：593点 平均点：118.6点

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：583点 平均点：116.6点

<能見台地区センター>

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：630点 平均点：126点

<柳町コミュニティハウス>

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：670点 平均点：134点

<並木コミュニティハウス>

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：627点 平均点：125.4点

<六浦スポーツ会館>

特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会 合計：618点 平均点：123.6点

(講評)

(1) 金沢地区センター

ア 指定候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

第1期からの運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。また幅広い自主事業計画や地域特性を活かした横浜市立大学との共同研究の取組は魅力的であり、施設の老朽化に対する維持管理・修繕についても積極的な姿勢が感じられた。

(2) 釜利谷地区センター

ア 指定候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

第1期からの運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。また近隣施設である西金沢コミュニティハウスや釜利谷地域ケアプラザとの連携事業の提案については評価できるが、地域的に離れているためより具体的な提案を示してほしかった。幼児や小学生の利用が多い強みを活かした「こどもの居場所づくり」の視点も評価できるため、より充実した事業につなげてほしい。

(3) 富岡並木地区センター

ア 指定候補者（株式会社有隣堂）

第3期からの団体の強み・ノウハウを活かした図書の充実や企業とのコラボレーション企画等の魅力的な事業展開が高く評価された。また団体の内部統制が働く良い管理運営体制となっている。地元高校や近隣施設との関わり、地域ニーズの把握や津波防災対策などの提案が評価された。なお今後はより地域性の理解を深め、地域とのつながり・連携を強化した事業展開を期待したい。

イ 次点候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

他施設の運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。ガリバーマップや地域散策ガイドの制作提案について、積極的に地域と繋がろうとする姿勢は高く評価できるが、より具体的な提案がほしかった。

(4) 六浦地区センター

ア 指定候補者（株式会社有隣堂）

第3期からの団体の強み・ノウハウを活かした図書の充実や企業とのコラボレーション企画等の魅力的な事業展開が高く評価された。また団体の内部統制が働く良い管理運営体制となっている。利用者ニーズを捉えた、きめ細やかで具体的な利用者サービスの提案がされており、継続して取り組んでいただきたい。なお今後はより地域性の理解を深め、地域とのつながり・連携を強化した事業展開を期待したい。

イ 次点候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）

	<p>他施設の運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。また地域性を分析した上での、緊急災害時の提案が評価された。一方で六浦スポーツ会館との連携提案は限られた人員や予算のもと効率性が評価できるものであるが、連携事業の具体性がやや不足しており、運営体制における不安点もあった。</p> <p>(5) 能見台地区センター</p> <p>ア 指定候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）</p> <p>第1期からの運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。金沢区の業務点検の評価も高く、稼働率の上昇に向けた、具体的且つきめ細やかな利用促進策を講じており、施設運営改善に対する熱意が感じられた。</p> <p>(6) 柳町コミュニティハウス</p> <p>ア 指定候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）</p> <p>第1期からの運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。また旧青少年図書館であったことの施設特性を活かした施設運営や積極的で企画に富んだ自主事業が評価された。スタッフによる修繕や清掃等、きめ細やかな配慮やサービスに努めている点も高く評価された。</p> <p>(7) 並木コミュニティハウス</p> <p>ア 指定候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）</p> <p>第1期からの運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。また本棚の増設や貸出冊数の増など図書環境の充実による利用者拡大の工夫についても高く評価された。今後は「ナミキアートプラス」のような大学との連携や隣接するリハビリテーション病院との連携など、より地域連携に積極的に取り組んでほしい。</p> <p>(8) 六浦スポーツ会館</p> <p>ア 指定候補者（特定非営利活動法人金沢区民協働支援協会）</p> <p>第1期からの運営実績や財務状況等団体としての安定性が高く評価された。また限られた指定管理料の中、安価な独自の予約システムの導入や自前による修繕の実施により、利便性の向上及びコスト削減を実現し効率的な運営を行っている。また、コロナ禍においても利用者数を大幅に増加させており、予約システムについても利用者に丁寧な対応を行い利用促進に努めている所が高く評価された。</p>
資料・特記事項	なし